

門祖日隆聖人物語 第10回



550

第六回でお話したように門祖聖人は妙本寺住職・月明との対立からお寺を去られたんだ。いつも門祖聖人に負かされていた月明は、その口惜しさがおさまらない。そこで「邪魔者の日隆を殺せ！」と門祖聖人の命を奪う計画をたてたんだ…。

彦十郎、吉川勝十郎、田中蔵人、尾崎傳内、水野半左衛門の六人で、この六人を「六剣士・六人の刺客」と言うんだ。

六人の侍は、手分けして門祖聖人を探し五条西洞院の大成坊（お寺）にいらした門祖聖人を見つけたんだ。そこでその夜（応永二十五年八月十四日）、門祖聖人を襲うことになったんだ。

御本尊から光明が

六人が大成坊に忍び込むと、門祖聖人はお堂の中で、南無妙法蓮華経と御題目をお唱えされていたんだ。そのお姿は、六人の侍が忍び込んだことなど全く気付かないほど、集中された熱心なお姿だったんだ。隙があれば打ち取ってやろうと六人は、息をこらし身構えたんだけど、斬りかかるところか、近寄ることも出来なかったんだ。

その時、不思議なことが起こるんだ。御本尊さまから強烈な光が「ピカッ」と光ったんだ。まるで暗闇に突然、太陽が現れたような感じなんだ。驚いた六人の侍は、あわてて刀を放り出し、「ヒュー」とばかりにお堂の土間に這いつくばり、ガタガタと振るえだしたんだ。

異変に気付かれた門祖聖人は、後ろを振り向かれ「一体何事ですか？」と訊ねられたんだ。すると六人の侍は「私共は妙本寺の月明住職に頼まれ、あなたを殺害するために忍び込んだものです。しかし、あなたは全く襲いかかる隙がありませんでした。それどころか今、大変恐ろしい光景を目の当たりにして、一同腰を抜かしておるところです。これほど立派なお方とは知らず、愚かな行為をしまして、どうぞお許し下さい」と、涙を流し白状するんだ。

門祖聖人は、自分たちの罪を恥じ、心からお懺悔した六人の侍を、お許しになられ皆をお弟子にされたんだ。このように数々のご苦労にも決して負けることなく、御法の正義を主張されたお方が門祖日隆聖人なんだねえ。

六剣士の難

妙本寺を出寺

お祖師さま（日蓮聖人）のみ教えを曲げて、規律を破り、やりたい放題の妙本寺住職・月明に対して、門祖聖人は、日存・日道両聖人とともに元の教えに戻すよう、何度も注意をしたんだ。だけど、なかなか月明は改めようとはしなかったんだ。

とうとう応永二十五年（一四一八）、門祖聖人と日存・日道両聖人。そして三聖人を指導者として慕う二十数人の人々は、妙本寺を出て行くことにしたんだ。

妙本寺を出られた門祖聖人は、ご自身が建てられた本応寺（のちに本能寺）に向かわれたんだ。この時の門祖聖人の身の上はいつ月明の仕返しに襲われるかもしれない危険な状態だったんだ。そこで本応寺は先回りされているかもしれないので、山本宗句というご信者の家に行かれ、その家の土蔵でしばらく身を隠すことにしたんだよ。

しかし、山本宗句の奥さんは門祖聖人をおかきまいすることに反対で、門祖聖人が自分の家の土蔵にいることを月明に教えてしまったんだ。でも門祖聖人は、とっさに危険を感じ土蔵を抜け出し、五条西洞院



御本尊から光明！門祖聖人をご守護

にあつた大成坊というお寺に移られたんだ。

六人の暗殺者

妙本寺住職の月明は、法論ではいつも門祖聖人に負かされていたので、門祖聖人がお寺を出られても、その口惜しさはおさまらなかつたんだ。そして、月明はその逆恨みから「邪魔者の日隆を殺せ！」と、門祖聖人の命を奪う計画をたてたんだ。

この時集められた侍が、西尾宮内、桜井